

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専修学校 熊本YMCA学院	昭和52年 3月23日	学院長 岡 成也	〒860-8739 熊本市中央区新町一丁目3番8号 (電話) 096-353-6393				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 熊本YMCA学園	平成5年 3月30日	理事長 菅 正康	〒860-8739 熊本市中央区新町一丁目3番8号 (電話) 096-353-6393				
目的	YMCAの特色を生かした保育・教育分野に関する教育を行うとともに、幼稚園や保育所、児童福祉施設との連携により整えられた授業や実習を通して、実務に関する専門的かつ実践的な知識・技術を習得し、保育士資格・幼稚園教諭免許の両方の国家資格を有した人材を養成する。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
教育・ 社会福祉	社会福祉課程	児童福祉教育科		36564	無		
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2990	1395	720	875	0	45
	単位時間						
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人		81 人	4 人	25 人	29 人		
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A80点以上、B70点以上、 C60点以上、D59点以下			
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月1日～3月31日		卒業・進級 条件	進級: 当該学年で修得すべき全ての科目について単位の修得。 卒業: 修得すべき全ての科目について単位の修得。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任が面接、学科長、教頭、事務局 局長副学院長が連携して対応		課外活動	■課外活動の種類 サッカー、野球、バスケット、バレーボール、ソフトテニス、パソコン、ダンス、検定等 ■サークル活動: 有			
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 保育所、幼稚園、児童福祉施設等 ■就職率^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 100 % ■その他 離職率0% (平成 26 年度卒業者に関する 平成27年5月1日 時点の情報)		主な資格・ 検定等	保育士、幼稚園教諭、 社会福祉主事任用資格、 キャンプインストラクター、 キッズリーダーU-6、 日赤救急法救急員 等			
中途退学 の現状	■中途退学者 9 名 平成26年4月1日 在学者 95 名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年3月31日 在学者 86 名 (平成27年3月31日 卒業者を含む)		■中退率 9.5 %				
	■中途退学の主な理由 進路変更、学校生活不適應、進路変更、病気						
	■中退防止のための取組 担任の日常的なサポートに加え、個別面談、三者面談、学院長を含む四者面談を段階を追って実施。						
ホームページ	URL: http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本学院の児童福祉教育科は、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科とのダブルスクールシステムにより、短期大学卒業資格と併せて保育士資格・幼稚園教諭免許の両方が取得を目指し、保育者として、様々な環境の中にある子ども達に、心を込めて援助・指導することを学び、心と身体のバランスがとれた子どもたちの成長を育む、児童福祉・幼児教育のエキスパートを人材の養成を行うためのカリキュラムの編成を行う。さらに、卒業後の職業人として円滑な業務の遂行ができるよう必要に応じて周辺知識も取り入れていく。また、業界の求める最新の知識や技術、これから必要となってくるトピックの採用には、実際の職業現場で活躍されている方の意見に耳を傾け、具体的な実習等の連携を通して教育課程に反映させる。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年9月11日現在

名前	所属
福島 正継	一般社団法人 熊本県建築士事務所協会 会長
亀浦 正行	(有)オフィス尚 代表取締役
熊本 哲朗	熊本YMCA学院 建築科 学科長
井上 真二	有限会社スイス 管理課長
下條 寛二	税理士法人近代経営 専務取締役
中尾 陽子	熊本YMCA学院 経営ビジネス科 学科長
松山 陽子	向陽台病院 法人局長
福島 英生	熊本診療情報管理懇話会会長(熊本県立大学教授)
藤森 美幸	熊本YMCA学院 医療事務管理学科 学科長
林田 美恵子	コミュニケーショントレーニングセンター代表
西村 浩二	熊本ホテルキャッスル 取締役販売支配人
光永 尚生	熊本YMCA学院 国際ホテル科 学科長
橋本公雄	熊本学園大学 社会福祉学部教授
福島貴志	NPO法人 IOBスポーツ推進事業団 理事長
横山 純一郎	熊本YMCA学院 生涯スポーツ科 学科長
吉岡 久美	九州看護福祉大学看護福祉学部社会福祉学科准教
神山 博行	合同会社 living space 有料老人ホーム デイサービス 縁(えん)小島
吉田 しのぶ	熊本YMCA学院 老人ケア科 学科長
永野 典詞	九州ルーテル学院大学 人文学科 子ども専攻 教授
緒方 健一	慈愛園子供ホーム 園長
西本 愛	熊本YMCA学院 児童福祉教育科 学科長
岡 成也	熊本YMCA学院 学院長

(開催日時)

第1回 平成27年7月30日 18:30~20:30

第2回 平成27年9月 7日 18:30~20:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実践的専門性を身に着けるためには、その前提となる基礎的な知識や技術、心構えを学ぶことが必要となる。そのために、学院内での講義や演習により、保育者として求められる専門的な知識と技術、保育者としての倫理観を身につけるとともに、保育現場との連携による実習を通して、乳幼児への個別支援・集団支援を実践の中で検証し、評価し、自己の課題を見出しより良い保育や教育実践へと高めしていく機会として、保育現場での実習を不可欠な学習と位置付ける。

科目名	科目概要	連携企業等
教育実習Ⅰ・Ⅱ	子どもと接する中で、個と集団のかかわり方の違いと援助法を体験する。幼稚園教育要領の保育内容5領域が、相互に関連性をもちながら、具体的な活動に取り入れられていることを、実際に補助的立場で参加しながら学ぶ。また、一日の自分の幼児へのかかわり方を振り返りながら、考察する力を養う。子どもの個の動きや特徴や遊び方、集団での流れを把握することで、学級運営の方法を体験的に学ぶ。	九州学院みどり幼稚園 北部幼稚園
保育実習1-① 保育実習Ⅱ(選択)	実習園の保育方針を理解した上で、保育の形態、流れを把握する。実際に乳幼児に接し、担任の保育者の補助的活動を行うことにより、内容を体験的に理解する。年齢別の子どもの発達の特徴、及びかかわり方を学ぶ。また、子どもへの対応、保護者や地域への対応を学ぶ。事前の計画(指導案)、準備、実際の指導、振り返りを通して、保育者の立場を身をもって体験する。自らの児童観・保育観と、保育者としての自覚をもつことで、将来の保育者としての基盤を確立する。	済生会しらふじ保育園 など
保育実習1-② 保育実習Ⅲ(選択)	実習施設(児童福祉施設)の理念、目標、機能、役割等を、実施の体験を通して理解する。子どもと生活を共にし、身近の世話や生活上の指導や援助にかかわりながら、個々の子どもに応じた接し方を学ぶ。配属された児童集団の中で、養護の実践を経験する。日常生活場面にかかわり、保育士の施設における全体的役割を理解する。個々の子どもの置かれている立場を理解し、それぞれの養護方針と援助のあり方を学ぶ。	児童養護施設 愛隣園 等

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員研修規程に基づき、教員は専門科目の実務に関する知識や技術、またその教授法について、さらに、多様化する学生への指導などに対する研鑽を深めるために、定期的及び継続的に研修・研究の機会をもつ。常に研修・研究を通して新しい情報を収集し、職業現場をめざす学生に時勢に沿った適切な授業内容を提供することが必要である。実際に職業現場において求められる人物像を正しく理解するために、生きた情報を指導者が得る機会を持ち授業の改善に役立てるものとする。特に、現場担当者や有識者の講演会等や学会、指導者同士の情報交換等により授業力の向上につながることから、積極的な参加を勧める。近年、特に多様化し学生間の学力に大きな開きが見られることから、教員の指導力は今後ますます柔軟性が求められる。専門分野に限らない指導力をも学校としての研修と位置付け、学生対応や授業展開の改善に役立てるものとする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年9月11日現在

名前	所属
村上 泰浩	崇城大学 工学部 建築学科 教授
本田 仁美	卒業生、在校生の保護者
横山 孝一	(株)コッコファーム 地域住民
本田 あずさ	熊本市民病院 診療情報管理士
櫻井 孝一	ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ社長兼CEO
土山 真也	公益財団法人熊本YMCA
大塚 永幸	公益財団法人熊本YMCA
跡部 尚子	特別養護老人ホーム くわのみ荘 理事長
三森 美香	児童養護施設 愛隣園 主任保育士

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/>

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			朝の読書Ⅰ・Ⅱ	始業開始にあたって集中を高め、心穏やかに過ごす。読書を通しさまざまな知識を得るとともに、新たな自分を発見する機会とする。	1前・後	30	2	○			○				
必			キリスト教学Ⅰ・Ⅱ	倫理とは何か、人間とは、宗教とは何かを考えながら、保育者として必要な福祉の心・保育の心を実在する偉人の生涯を通して考える。	1前・後	30	2	○			○				
必			教養講座Ⅰ・Ⅱ	様々な環境にいる子どもたちに心を籠めて接すること、また、子どもたちの「SPIRIT」「MIND」「BODY」のバランスのとれた成長をサポートできる保育者をめざし、保育者としてふさわしい自立した社会人となるための学びを行う。専門科目を学ぶために必要な基礎学力を確かなものとするための学びに取り組む。	1前・後	60	4	○	△	△	○	○	○		
必			接遇マナーⅠ・Ⅱ	職場でより良い人間関係を築き、円滑に業務を遂行するために必要な、基本的なマナーを身につける。また、実習や就職活動に自信を持って臨める自分作りを目的とする。保育の場におけるマナーの必要性を認識するとともに、職業人、社会人として求められる基本的なマナーの習得を目標に、講義、ロールプレイ等の実技を中心とした実践的な授業を行う。	1後・2前	30	2	○	△		○				
必			レポート作成Ⅰ・Ⅱ	「丁寧に」「調べる」「書きとめる」ことを意識し、目的意識を明確にし、文章表現の基本を楽しく学び、書くことへの苦手意識を払しょくするとともに、レポート作成への足掛とする。	1前・後	30	2	○			○				
必			朝の読書Ⅲ・Ⅳ	始業開始にあたって集中を高め、心穏やかに過ごす。読書を通しさまざまな知識を得るとともに、新たな自分を発見する機会とする。集中することとして「読む力」「聞く力」「書く力」を育てる。	2前・後	30	2	○			○				
必			キリスト教学Ⅲ・Ⅳ	倫理とは何か、人間とは、宗教とは何かを考えながら、保育者として必要な福祉の心・保育の心を実在する偉人の生涯を通して考える。	2前・後	30	2	○			○				
必			就職対策Ⅰ・Ⅱ	それぞれのこれからの人生を考える中で、方向性を明確にしていく。次年度の就職活動に向けて、就職状況がどのようなものかを知る中で、これからどのようなことに取り組んでいけばいいのかをともに考える。	2前・後	30	2	○	△		○		○		
必			教養講座Ⅲ・Ⅳ	将来、いろいろな視点を持った保育者になる力をつけることを目的にし、学院の行事に取り組む。クラスの中で経験することが人とのかわり方の学びになり、そのことから、子どもたちのバランスのとれた成長をサポートできる保育者を目指し、保育者としてふさわしい自立した社会人になるための学びを行う。	2前・後	60	4	○	△	△	○	○	○		
必			就職対策Ⅲ・Ⅳ	就職に向けて、自分自身をしっかりと見つめていって欲しい。次年度の保育（児童福祉施設）実習の選択に必要な調べ学習を積極的に取り組んで欲しい。	3前・後	45	3	○	△		○		○		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			教養講座Ⅴ・Ⅵ	※様々な環境にいる子どもたちに心を込めて接すること、そして、子どもたちの「SPIRIT」「MIND」「BODY」のバランスのとれた成長をサポートできる保育者を目指し、保育者としてふさわしい自立した社会人になる為の学びを行います。 ※ 様々な経験を通して、全人的成長を目指し、一人ひとりが自ら考え、行動できる力を養う。	3前・後	30	2	○	△	△	○	○	○		
必			保育技術Ⅰ・Ⅱ	子どもの成長と子どもの世界を考慮し、制作を通して創造性を深めたい。保育に必要な基本的技術を身に付け、現場でできるようにする。紙芝居の制作を通して、子どもたちにとっての物語の世界の理解を深める。季節の行事を知り、保育者として知識を深める。	1前・後	30	2	△		○	○		○		
必			情報処理	ブラインドタッチをマスターし、入力スピードを上げ、園便りやビジネス文書などの作成が自在にこなせるよう、ワードの基本機能をマスターする。	1前	15	1	△	○		○				
必			リトミックⅠ	まずは自分自身で経験し、ゆたかな表現ができるようになる。自分が経験したことを子どもにどう伝えていけばいいかを考える。子どものためのリトミックを中心に進める。音楽理論の基礎を学ぶ。	1前	15	1	△	○		○		○		
必			野外教育	キャンプインストラクター養成カリキュラムを中心に、クラスキャンプ実施のための理論と技術の習得に取り組み、指導者としてのさらなるステップアップの学びを行う。	1前	15	1	○			○		○		
必			ピアノⅠ・Ⅱ	ピアノ奏法の基礎技術と日常の保育に必要な読譜力の習得を目指す(初心者)。さらに、幼児・児童の感性を豊かに育てるための演奏技術の向上を目指す(経験者)。あわせて、音楽理論の確認を行いつつ基礎を養う。	1前・後	90	6			○		○			
必			声楽Ⅰ・Ⅱ	歌に始まり歌に終わる音楽において、声の出し方(発声法)を学ぶことによって、保育に必要な演奏の技術の向上を目指す。演奏技術習得のためのソルフェージュ力を養う。	1前・後	30	2			○		○			
必			キャンプ実習Ⅰ	キャンプインストラクター資格取得を目指し、野外教育(組織キャンプ)の意義を知ると共に、野外生活の楽しさを体験する。また、幼児を対象とした組織キャンプにおける教育的意義を理解する。	1後	75	3				○	○	○	○	
必			観察実習	乳幼児との交流を通して、1日の保育の流れについて、学びを深める。観察実習を通して、乳幼児の姿、保育者の援助、保育の流れの実際を知る。	1後	60	2				○		○		

必		社会的養護内容Ⅱ	<p>養護内容は、児童福祉施設における日常の積み重ねである。保育士が日々子どもたちと暮らしを共にしながら、ゆたかな人間関係の構築と健やかな成長発達、さらには社会的自立を目標に生活のスキルを伝承していく営みでもある。その具体的な実践内容について学習する</p>	1 後	15	1	○			○					
---	--	----------	---	--------	----	---	---	--	--	---	--	--	--	--	--

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			幼児体育	乳幼児期の運動経験は子どもの発達にとって大きな意義を持っている。したがって保育者は子どもの運動発達の順次性や興味関心、欲求を十分に理解したうえで明確な意図を持った保育計画を設定し、児童期への橋渡しをする保育を展開する責務を担っている。理解したうえで体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討する	2後	15	1	△		○	○				
必			コンピュータ演習Ⅰ・Ⅱ	Word/Excel・PowerPointのオフィススイートの基本操作を習得することを目標とする。	2前・後	30	2	△	○		○				
必			保育技術Ⅲ・Ⅳ	子どもの成長と子どもの世界を考慮し、制作を通して創造性を深めたい。保育に必要な基本的技術を身に付け、現場で実行できるようにする。紙芝居の制作を通して、子どもたちにとっての物語の世界の理解を深める。季節の行事を知り、保育者としての知識を深める。	2前・後	30	2		○		○	○			
必			リトミックⅡ	音楽的な感覚を高める。音・音楽による表現力を養う。身体による表現力を養う。基礎的な音楽理論の理解を深める。	2前	15	1		○		○				
必			実習指導Ⅰ・Ⅱ	実習の目的、意義をしっかりと理解し、教育現場において、より積極的な取り組みができるよう、事前の準備・計画、実習後の振り返りまでの流れを学ぶ。教育実習Ⅰの「保育の実態を観察し、それまでに学習してきた知識や理論などを子どもとの生活を通して、教育現場で実践する」という目的を達成するための準備・実践・振り返りを行う。	2前・後	30	2	○			○				
必			ピアノⅢ・Ⅳ	近大テキストをすべて終了し音楽Ⅰ-②、音楽Ⅰ-③に合格できるように取り組む。1年生で身に付けた基礎を基に実習で子どもたちの前でピアノを弾くことを想定した練習に取り組む。実習前は弾き歌いに取り組む。	2前・後	90	6		○		○				
必			声楽Ⅲ・Ⅳ	教材（コーリューブゲン・コンコーネ・リズム）を使いより正確な読譜力の訓練をする。「子どもの世界」の楽譜を使い、指導のシュミレーションをする。	2前・後	30	2		○		○				
必			キャンプ実習Ⅱ	自分達で企画・立案したキャンプを実際に展開し、実践力を高める。また、グループワークを通じて、カウンセラーの役割を理解する。	2後	105	4			○	○	○	○		
必			国語	演劇などの表現手法を用いた計画的なワークショップ型の授業を通して、自らの気持ちを言葉で表現する力や、言葉を繋ぎ、物語を創る創造力や脚本を作る力の基礎を育む。	3前	15	1	△	○		○				

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			ピアノⅤ・Ⅵ	幼児がさらに音楽の楽しさを味わえるよう、知識を高めそれに伴う演奏技術の向上を図る。就職試験対策として前期試験曲を選曲し、試験を実施する。今後各自が自らピアノに向かい練習するような姿勢を確立する。	3前・後	60	4		○		○				
必			音楽研究Ⅰ・Ⅱ	幼児の特徴、身体機能や発達の特徴を知り、保育の在り方について考える。応答的保育の特徴とその具体的な援助について理解する。実際の現場で役に立つ知識や技術、感性を身につける。	3前・後	30	2	△	○		○		○		
必			弾き歌いⅠ・Ⅱ	卒業後・保育現場で力を発揮できるよう、園で歌われる歌を題材に、音楽活動に必要な様々な知識・技術の習得を目指す。就職試験対策として、暗譜・初見・コード伴奏に取り組む。	3前・後	30	2		○		○				
必			卒業制作	現代社会の激しい変動や幼児教育現場の関わる課題が複雑・多様化する中で、保育者として教職生活を営むためには、これまでの学習を体系的に統合し、省察する作業が必要である。その課程において、保育者としての総合力を高める。今年度から評価を入れる必要な資質能力を確実に身に付けているかどうかを確認し、必要な自己点検を講じる必要がある。これまですべての学習の集大成と位置づけられる。	3後	90	6	△	○		○	○	○		
必			保育原理	保育原理では、保育とは何かについて、保育の基盤となる基本的理論や知識を習得すると同時に、子どもを取り巻く現状や課題にも目を向け理解を深めていく。	1前	30	2		○		○				
必			保育指導	幼児の特徴、身体機能や発達の特徴を知り、保育の在り方について考える。応答的保育の特徴とその具体的な援助について理解する。実際の現場で役に立つ知識や技術、感性を身につける。	1前	15	1		○		○				
必			教育心理学	子どもの心身の発達や、経験を通して学習するプロセスについて理解し、それをもとに適切に子どもに関わり援助できるようにする。子どもの発達援助のために心得ておかなければならない心理学的基礎知識を学ぶ。	1前	15	1		○		○				
必			社会福祉	日常生活の中で、福祉や教育に関する情報に注目し、社会福祉の基礎的な知識を学び、法律や制度の理解を深める。学んだ理論を活かし、今後の社会福祉の在り方を考えつつ、児童福祉教育の実践につなげる。	1前	30	2		○		○				
必			児童家庭福祉	児童を取り巻く社会環境、家庭環境などの現状を検討することにより、児童が直面している数々の問題と生存権、発達権の保障、児童の人権について理解を深める。	1前	30	2		○		○		○		

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
必			社会的養護	社会的養護の中核的な機能を担っている児童福祉施設の実際を学ぶことにより、保育士としての豊かなかんせいや援助技術等の専門性を培う。さらに、保育士としてだけではなく、地域にクラス一人の人間としての資質を高め、夜会的養護の本当の意味での構築につなげる。社会的養護の変遷を理解しながら、子どもの権利や社会的養護の方向性を理解する。	1前	30	2	○			○					
必			教師論	教師生活を多目的に学び、教職の意義を明らかにする。教師と児童・生徒との関わり合い、教師の役割と社会的責任、意識や文化および教職の専門性などについて考える。教職についての基本的理解と明確な自覚を得るための学びを深める。	1前	30	2	○			○					
必			教育課程総論	教育課程とは、教育の目的や目標を有効に達成するための教育内容を、子どもの心身の発達に応じて、選定し、組織し、配列した教育を進めるための計画の全体である。したがって、幼稚園においては保育を進めるための計画の全体をさすものである。 この教育課程そのものには、考え方により多様な類型が存在するが、本科目では、将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりが、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に教育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養うことを目標とする。	1後	30	2	○			○		○			
必			英会話 I	英語を手段として、他者とのコミュニケーションが取れるようにする。将来の職場である保育園や幼稚園で、異文化交流において英語で積極的に触れ合う機会を親しみを持って参加できるようにする。	1後	15	1	○			○					
必			健康科学	少子高齢化社会の到来と余暇時間の増大、生活習慣病の増加など現代人を知り取り巻く環境が大きく変化する中で、健康の重要性について考え、その保持・増進について考えていく。健康と運動・スポーツという視点から、生涯を通じて健康づくりを行うことの必要性について、具体的実践方法を学んでいく。経験を通じ、運動スポーツの継続について考える。	1後	15	1	○			○		○			
必			情報処理 I	ブラインドタッチをマスターし、入カスピードを上げ、園便りやビジネス文書などの作成が自在にこなせるよう、ワードの基本機能をマスターする。並行して検定問題をすることにより作業速度の向上をはかる。	1後	15	1	○			○					
必			音楽 (理論) II	読譜に必要な音楽理論を理解し、学生自身の音楽の基礎知識を深め、音楽における表現や技術の向上に役立てる。	1後	30	2	○			○					
必			乳児保育	3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身に付け、子どものあるがままの姿をとらえ保育することができる力を養う。また子育てを担う保護者を支援する者として保育者の役割を考える。	2前	15	1	○			○					
必			乳幼児心理学	人間の精神機能の基礎ができあがる乳幼児期について学ぶ。単に理論を学ぶだけではなく、人間観（人間とはどんな存在なのか）を自分なりに持つことが狙いである。	2前	15	1	○			○					

必		教育相談	<p>保育の場は、多くの子どもたちにとって、初めての家庭以外での集団生活を体験する場。その中で子ども同士での問題も生じる。保育士は子どもたちと日々の生活を共にし工夫しながら関わることで子どもたちに人間関係やコミュニケーション力を身に付けていく手助けをすると同時に子どもの生活を支えている家族への支援も重要な役割の一つである。そのため子どもや家族への支援スキルの基礎を学ぶこととする。</p>	2 前	30	2	○			○					
---	--	------	---	--------	----	---	---	--	--	---	--	--	--	--	--

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			教育原理	教育の本質と意義、教育に関する基礎的な概念と知識の習得を図る。教育とは何か、教育の目的、教育の内容、指導法、子ども理解、教育の諸問題を通してそれぞれが考え、実践していくことを目指す。	2前	30	2	○			○	○			
必			日本国憲法	憲法とは、私たちの社会生活を規律するすべての法の「頂点」に位置する法規範である。日本国憲法を「考えてみる」ことによって、現代社会における憲法の意義を理解し、社会人として必ず要求される素養・法的な思考方法を身に付けることを目標とする	2前	30	2	○			○				
必			表現Ⅰ	幼稚園教育要領に基づく表現領域では、幼児自身の心情や自発的意欲を重要視して、ゆたかな感性や表現力を培いながら創造性を豊かにしていくことが大切である。幼児の各年齢さを鑑みて考慮しながら幼児が本意持っている豊かなイメージや表現力想像力を引き出して展開させていくことが必要である。幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力の養成を目標とする。	2前	15	1	△	○		○				
必			児童家庭福祉Ⅱ	児童家庭福祉で習得した児童家庭福祉全般についての基礎知識と相談援助学ぶ社会福祉の専門的方法を基礎として、児童の生存権や発達権を保障するためのすべての子どもや家庭に対するサービスの援助技術・方法の基本的知識に関する理解を深め事を目的とする。	2後	15	1	○			○				
必			家庭支援論	保育士の仕事として「保護者に対する保育に関する指導」がある。養成施設を卒業したばかりであっても「家庭支援」について学びを深めて卒業させてほしいという現場からの期待もある。その期待に応えるための教科目である。保育士のもつ家庭感のある。保育士のもつ家族観が自分の育った家庭だけという狭いものでないはずがない。それぞれの家族がもつ個性、子育てに関連して家族で発生してくる課題などについて、自ら学びとってほしい。	2後	30	2	○			○	○			
必			障害児保育	すべての子どもは、その発達を保障されなければならない。そのことは障害や遅れのある子どもにおいては特に配慮する必要がある。このような視点に立ち、まず子どもの心身の発達についておよび脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。	2後	15	1	○			○				
必			子どもの食と栄養	成長・発達の過程にある小児期の栄養は、生涯にわたる健康と生活の基礎となるもの。小児の発育・発達の特徴、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食（保育所給食）食教育の重要性を理解することを目標にする。	2後	15	1	○	△		○				
必			子どもの保健Ⅰ	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点および今後の課題がわかる。子どもの心身の正常な発育がわかり、各期の特徴を理解する。子どもの保健行政について理解する。	2後・3前	60	4	○			○				
必			発達心理学	人間の発達・成長について、子どもの時期だけでなく生涯にわたって理解する。特に青年期から成人期にどのような課題があるのか、どのようにしてその課題を達成していけばよいのかといったことについて自分自身の問題として考えていく。	3前	30	2	○			○				

必		保育・教職実践演習	模擬授業を通して、自分自身の保育を深める。また、保育者・日保育者の役割を担う中で、それぞれの気づきを話し合い、今後の保育につなげる。	3 後	15	1	○			○					
---	--	-----------	--	--------	----	---	---	--	--	---	--	--	--	--	--

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			英会話	具体的に設定された英会話、それに伴う発音などを耳から学ぶ。また、自分の状況に合った会話を自分自身で作り、声にするという手順で学びを深める。英会話に馴染み、会話力を高める。	1後	15	1	○			○				
必			生涯スポーツ	生涯学習社会において、子ども、高齢者、障がい者を含めた各種スポーツの技能の向上を中核目標としながら、それに関わるスポーツ発展史の理解を深めたり、国民スポーツの諸相と課題について考える。	1前	15	1	△	○		○				
必			情報処理 I	PowerPoint（プレゼンテーション）等のオフィス系ソフト、イラストレーターなどの基本的な操作方法から、「園便り」等の実用的なドキュメントの作成までを行う。	1後	15	1	△	○		○				
必			社会的養護内容	養護原理をふまえて、社会的養護の中でも特に施設養護に焦点をあてて、各種児童施設における目的と機能、養護プログラムの展開、児童処遇の実際を理解する。実践的な保育力を培うために可能な限り現場を意識し、実際の場面を想像し体感する学びを実施する。	1後	15	1	○			○				
必			保育指導	幼稚園や保育所で求められている保育者の資質とは何かを考え、保育者の役割を理解した上で、保育において求められる「指導」とは何かを考え、学んでいくことを目的とする。	1後	15	1	○			○				
必			図画工作	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関する基礎知識と表現技術を学び、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成するk+を目標とする。	1前	15	1	△	○		○				
必			健康	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それに関わる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目標とする。また、健康維持にふいかけつな生理機構を理解する。	1後	15	1	○			○				
必			人間関係	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。子どもを取り巻く社会的環境を把握し、現状と問題を整理する。そして、人とのかかわりを育てる保育の実践を学ぶ。	1後	15	1	○			○				
必			教育心理学	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、学習の仕方、学習に対する意欲・自主性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を考えることを目標とする。	1後	15	1	○			○				

必		音楽 I	幼児教育に携わる保育者の、器楽（ピアノ）・声楽を中心に、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。	1 後 ・ 2 後	30	2		○	○						
---	--	------	--	-----------------------	----	---	--	---	---	--	--	--	--	--	--

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			保育内容総論	保育所保育方針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解する。また、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践に繋げて理解する。	1後	15	1	○			○				
必			教育実習事前・事後指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、さらには、専門教育科目で習得した知識や技能と幼稚園における教育実践とを具体的に統合することによって教育実習に対する意欲や課題意識を高める。	1後	15	1	○			○				
必			保育実習事前・事後指導	保育実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。保育実習の全般的な枠組みを理解し、実習に臨むところがまえを育み、指導計画案の作成や実習日誌の書き方等に関わる知識と技術を身につける。	2前・後	30	2	○			○				
必			児童家庭福祉Ⅱ	児童福祉を取り巻く社会の諸状況の変化、および児童の権利条約などの児童の権利論についての理解を深める。また、保育現場における子どもに関わる問題について、事例を基に分析・考察を行う。	2後	15	1	○			○				
必			保育相談支援	保育の専門性を活かし、子育て中のほごしやを支援することが求められている。そのニーズに応えるべく、将来保育者として保護者を理解し、寄り添い、指導することができるようになるために、保護者支援の意義や基本を理解したうえで、方法や技術を学ぶ。	2後	15	1	○			○				
必			幼児体育	幼児期と小学校低学年段階との発達の関連から体育的な活動に関わった教育・保育内容と、その方法を検証する。幼児体育を実践する上で必要な運動遊びのレパトリーを習得すること、さらに、そうした遊びの連続性・発展性を広げていく上での視点に関わった実践的知識を習得する。	2後	15	1		○			○			
必			表現Ⅰ	幼児の造形表現の分野において、幼児小野各年齢差を鑑みて考慮しながら、幼児が本来持っている豊かなイメージや表現力・創造力を引き出し展開させていくことが求められる。幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容を学び、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力の養成を目標とする。	2後	15	1	△	○		○				
必			障がい児保育	すべての子どもは、その発達を保障されなければならない。そのことは、障がいや遅れのある子どもにおいては特に配慮する必要がある。このような視点に立ち、まずは子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤として子どもの知的・身体的障がいについての理解を深める。障がい児の発達の变化を促す保育的援助について考える。	2前	15	1	○			○				
必			乳幼児心理学	子どもたちがどのようにこの世界を理解しようとしているのか、また、その理解の仕方の変化や発達について考える。子どもの視点がどのように大人の視点と違うのかを感じ取り、子どもたちの考えていることが分かるようになることを目指す。乳幼児の発達の基礎を含めた知識を理解し、実際の保育場面や日常生活の中で、保育者が活用できる能力を養うことを目指す。	2前	15	1	○			○				

必		表現Ⅲ	<p>幼児期に豊かな感性や表現する力を養い、創造性豊かにするねらいのもと、表現の領域において、幼児の心身の発育発達を促し、リズム感をつけるとともに、体を通して、感じたこと、思ったこと、考えたことなど動きで様々な表現ができるよう、指導・援助法を学ぶ。</p>	2 後	15	1	△	○		○					
---	--	-----	--	--------	----	---	---	---	--	---	--	--	--	--	--

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			子どもの食と栄養	成長・発育の過程にある小児期の栄養は、生涯にわたる健康と生活の基礎となるもの。小児の発育・発達の特徴、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食（保育所給食）食教育の重要性を理解することを目標にする。	2後	15	1	○			○				
必			乳児保育	3歳未満児の成長発達と発達課題、保育内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援するものとしての保育者の役割を考える。	2後	15	1	○			○				
必			言語表現	言語表現の表現活動における知識、技術を習得することを目的とする。保育者として、子どもの発達段階にあった絵本や紙芝居などを提供するための知識、読み聞かせの技術について学ぶ。	2後	15	1	○	△		○				
必			相談援助	保育士を目指す者にとって必要とされる相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を習得することを目的とする。事例を通して社会福祉援助活動の実際を学ぶ。	2前	15	1	○			○				
必			子どもの保健Ⅱ	子どもの身体の諸機能が未熟で十分発達していないため急変し重症化しやすく不慮の事故にもあいやすい。早期発見、予防することにより回復も早いという特徴がある。子どもの健康は心身の健全な発育・発達が基本となることから、保育者は専門的な知識と技術が求められる。子どもの健康と生命を守るための実践力を身につけることを目標とする。	3後	15	1	○	△		○				
必			表現Ⅱ	幼児の心が弾むような楽しい経験の積み重ねを保育者としていかに手助けすべきか、楽しい日々の保育の中で幼児の心が創造豊かに、感情豊かに成長していくために、保育者はどのような環境を設定し、どのように援助すべきかを実践的表現活動を通して学ぶ。	3後	15	1	○			○				
必			環境	子どもたちを取り巻く環境の現状を把握し、子どもたちの「生きる力」を培うための保育の工夫、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に、子どもの自然とのかかわりを深める保育の実践的指導能力の育成を目指す。	3後	15	1	△	○		○	○			
必			言葉	言葉（言語）の発達に関する理論を理解する。言葉の発達における、子どもを取り巻く環境の影響について検討する。特に「コミュニケーション」に着目し、その理論を理解する。領域「言葉」を理解し、子どもの言葉を育む保育者の関わり方について検討し、理解を深める。	3後	15	1	○			○				
必			保育・教職実践演習	保育者として給食を営むために、これまでの学習を体系的に統合し、省察する取り組みを通して、保育者として必要な資質能力を確実に身につけているか、4つの項目を検討しながら保育現場で求められる実践力の形成を目指す。①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③幼児児童理解や学級経営に関する事項④強化・保育内容等の指導力に関する事項	3後	15	1	○			○				

必		保育実習Ⅰ－ ①	実習園の保育方針を理解した上で、保育の形態、流れを把握する。実際に乳幼児に接し、担任の保育者の補助的活動を行うことにより、内容を体験的に理解する。年齢別の子どもの発達の特徴、及びかわり方を学ぶ。	2 後	110	5				○		○				○
---	--	-------------	---	--------	-----	---	--	--	--	---	--	---	--	--	--	---

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 児童福祉教育科) 平成27年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
必			保育実習Ⅰ-②	実習施設（児童福祉施設）の理念、目標、機能、役割等を、実施の体験を通して理解する。子どもと生活を共にし、身の世話や生活上の指導や援助にかかわりながら、個々の子どもに応じた接し方を学ぶ。	3前	110	5			○		○			○	
	選択必修		保育実習Ⅱ・Ⅲ	・子どもへの対応、保護者や地域への対応を学ぶ。事前の計画（指導案）、準備、実際の指導、振り返りを通して、保育者の立場を身をもって体験する。自らの児童観・保育観と、保育者としての自覚をもつことで、将来の保育者としての基盤を確立する。 ・配属された児童集団の中で、養護の実践を経験する。日常生活場面にかかわり、保育士の施設における全体的役割を理解する。個々の子どもの置かれている立場を理解し、それぞれの養護方針と援助のあり方を学ぶ。	3前	110	5			○		○				○
	選択必修		保育実習事前事後指導Ⅱ・Ⅲ	・保育実習Ⅰ-①、その他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅱに向けた準備を行う。保育所の理解、子どもや家庭への支援についての理解を深め、さらに、指導計画の作成や記録など保育実践力を養うことを目的とする。 ・保育実習Ⅰ-②を円滑に行うための必要な事柄を学習する。保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えをつくり、保育実践力を養う。	3前	15	1	○								
必			教育実習Ⅰ	子どもと接する中で、個と集団のかかわり方の違いと援助法を体験する。幼稚園教育要領の保育内容5領域が、相互に関連性をもちながら、具体的な活動に取り入れられていることを、実際に補助的立場で参加しながら学ぶ。	2前	130	6			○		○				○
必			教育実習Ⅱ	一日の自分の幼児へのかかわり方を振り返りながら、考察する力を養う。子どもの個の動きや特徴や遊び方、集団での流れを把握することで、学級運営の方法を体験的に学ぶ。	3後	130	6			○		○				○
合計					93 科目		2990単位時間（180 単位）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。